

目指す学校像	愛情と信頼に支えられた 夢と希望を育み 成長する学校（3つのGで成長する学校）
重点目標	1 「学びの自律」「学びの個別最適化」と「学びの探求化」の実現 2 安全・安心な教育環境の整備・充実 3 S S N連携の強化とコミュニティ・スクールによる地域連携事業の実施と推進 4 「生徒の探求的な学びに伴走できる教師」の具現化

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、国語では「我が国の言語文化に関するもの」数学では「データの活用」について概ね達成できている。 ○上位層と下位層の差（フタコブ分布）がある。 ○日頃の学習の様子から、各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動について、前向きに取り組もうとしている生徒が多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、「学習したことが身の回りのこととつながるようにする」「自分の考えを、根拠を明確にして表現できるようにする」ことについて、改善と努力を要する。 ○「家で、自分で計画を立てて勉強している」の項目の数値が低く、学習計画の立て方や励ましの継続的な取組が必要である。 ○教科の特質に応じてICTを活用した学習活動を設定し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善が必要である。	・「学びの自律」「学びの個別最適化」「学びの探求化」に向けた実践 ・心の教育・豊かな人間性の育成	①学校の課題に基づき、学力向上ポートフォリオの手立てについて自己評価シートに各教員が位置付ける。 ②校務分掌の「学習部」を中心にドリルパークやスタディ・サブリの活用について具体策を検討し、家庭学習習慣の定着・充実に取り組む。 ③学びの自律化を目指すICTを基盤とした「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業を実践する。	①人事評価面談において、すべての教員が位置づけ、評価面談等が実施できたか。 ②学校評価アンケート項目「⑤家庭学習の習慣がなされている」において、前年度の57%以上となったか。 ③「よい授業」のアンケート項目「児童生徒の活動」で昨年度の3.3以上となったか。					
					①自己の生き方について深める道徳科の授業改善に努めるほか、特別活動（進路指導・キャリア教育等）総合的な学習の時間（潤いの時間 STEAMS TIME等）を通して豊かな人間性や創造性を育む授業実践を展開する。 ②生徒主体の生徒会活動を活性化させ、SDGsの実現を目指した取組やボランティア活動を実践する。	①学校自己評価に係る項目「⑮学校は私たちの生き方について、考えさせたり豊かな心を育てようとしたりしている」について、肯定的な回答の割合が、昨年度の平均 89%以上となったか。 ②全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある」の項目を、昨年度の53.2%を上回ったか。			
2	〈現状〉 ○学校評価において、「楽しく学校生活を送っている」は95%を維持することができた。 ○特別に配慮を要する生徒の数は、年々増加傾向にある。 〈課題〉 ○これまで以上に、地域や保護者の方が授業や行事等を参観できるようにするなど、学校の現状を正しく理解していただける機会を作っていくことが課題である。 ○中一ギャップ、with コロナによるストレス生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、組織で支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。	・個に応じた生徒指導・教育相談における支援体制の充実 ・12年間の学びの連続性を生かした学校行事と小・中一貫教育の推進	①個別対応が必要な生徒の職員配置を柔軟に行い。個別の指導計画に反映させる。 ②組織的な教育相談体制を充実させ、不登校生徒や配慮を必要とする生徒については、家庭との連携をもとに、きめ細やかな対応を行う。（生徒指導・教育相談・特別支援の連携・ケース会議の実施等）	①学校自己評価に係る生徒・保護者アンケート、「⑦学校は、私たちが保護者の相談事や悩みなどについて、親身に応じてくれる」等関連する項目の肯定的な回答の割合が昨年度の 90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目「⑦相談事や悩み事について親身に応じている」の肯定的な回答の割合が 97%以上となったか。					
					①大宮西小・宮前小学校との連携を進め相互授業参観や合同研修等を実施し児童生徒の教育的課題を把握・共有する中で、実践的研究を推進する。 ②校内における学校行事の充実と、つぼみの日、あいさつ運動、いじめ撲滅子ども会議の実践等で児童生徒間の交流事業を実施する。	①心と生活のアンケートの信頼度を昨年の53%を上回ったか。 ②学校評価に係る生徒アンケートに「⑬学校行事は楽しく充実している」と肯定的な回答する生徒の割合が 96% 以上となったか。			
3	〈現状〉 ○昨年度の学校運営協議会において、目指す生徒像等について熟議を積み重ね、地域総がかりの教育を目指していくことを共有した。 〈課題〉 ○学校運営協議会で協議した内容（地域や家庭でどのような子どもたちを育てていくのか等）についてさらに熟議し、その実現に向けた具体的な方策と実行について役割を確認し継続的に取組を推進していく。 ○令和6年度に創立50周年を迎えるにあたり、学校・家庭・地域が連携し、来年度の実施に向けて協同していく。	・SSN連携の強化と地域連携事業の実施と推進（創立50周年記念事業の取組） ・開かれた学校づくりを目指す情報発信	①地域の教育リソース（土曜チャレ：藤花教室）を活用した教育活動を年間計画に位置付けて年20回実践する。 ②公民館との連携事業、地域行事等への積極的な参加と、朝のあいさつ運動やボランティア活動等を生徒、PTA・地域とともに、連携して推進する。 ③創立50周年記念事業実行委員会の立ち上げと運用計画を実施する。	①土曜チャレンジスクール（藤花教室）が、年間20回実施できたか。 ②③学校自己評価に係るアンケートで、「⑪地域の行事に積極的に参加している」で、昨年度の30%を上回ったか。					
					①本校HP内にある学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページで目指す生徒の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校・学年日より、学校HP、学校安心メール等で積極的に情報を発信するとともに、ICT等を活用しながら学校公開、授業参観、保護者会等を実施する。	①学校自己評価に係るアンケートで、「⑳保護者は、学校とのコミュニケーションがうまくとれている」と回答する割合が85%以上となったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「⑲学校は、保護者が必要とする情報を学校、学年日よりなどで適切に説明している」と回答する割合が90%以上となったか。			
4	〈現状〉 ○STEAMS TIMEの課題の洗い出しや、その改善方法については、途上段階である。 ○タブレットの活用方法について、エバンジェリストによる情報提供や研修に取り組んできた。 〈課題〉 ○タブレットの活用、学び合いを軸にした授業改善については、教員の取組に個人差が見られ、成果や課題を共有し改善していく必要がある。	・生徒の探求的な学びに伴走できる教師の具現化	①STEAMS TIME、教科横断的視点等について、研修主任、エバンジェリストを中心とした研修を学期に1回行う。 ②全国及び市の学習状況調査の結果を分析するとともに、学力向上カウンセリングの研修（2学期）を実施し、指導力の向上に取り組む。 ③OJT等について、人事評価面談や行事等において振り返りを行う。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて日常的にICTを活用する状況になったか。 ②学力向上カウンセリングの研修後の、授業アンケート項目において、前年度の3.4を上回ることでできたか。 ③全ての教員が、授業改善策に取り組み、80%以上の教員が達成を実感することができたか。					